

施策マネジメントシート ～2019年度の振り返りから2020年度の取組へ～

①計画⇒実施（Plan⇒Do）
 (5月中に記入)

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野	しごと分野	担当課		経済観光課			
	政策分野	地域産業	課長名		岩下 栄一			
	施策	12 観光・交流の振興	重点施策の該当		R1	○	2020	○
施策の目的	対象	観光事業者、観光客		意図	地域の魅力をしてもらう所得を増やす			

施策の目標指標

目標指標(単位)	長振策定時	指標の推移					最終目標値
	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	2019年度実績	2020年度目標値	2021年度目標値	
種子島への船による入込数(離島カード利用者以外)(人)	—	146,856	130,863	128,222 (149,000)	150,000	151,000	
宿泊者数(人)	66,415	68,454	69,164	75,186 (69,000)	70,000	71,000	
種子島へ行ってみたい人の割合(%)	96.8	96.3	94.7	94.7 (97.4)	97.6	97.8	

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

平成29年度実績		平成30年度実績		2019年度実績		2020年度実績		2021年度実績	
重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)
84.0	24.0	85.2	22.2	82.4	19.6				
重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI
80.1	-10.2	82.9	-7.7	79.6	-15.4				

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連 戦略 No.	成果指標(単位)	長振策定時	指標の推移					最終目標値
			28年度実績	29年度実績	30年度実績	2019年度実績	2020年度目標値	2021年度目標値	
観光施設の整備	6-15 6-16	観光施設・環境の整備・修繕件数(箇所数)	0	1	1	1 (2)	2	2	
観光誘客活動の推進	6-13 6-15	種子島への船による入込数(離島カード利用者以外)(人)	—	146,856	130,863	128,222 (149,000)	150,000	151,000	
観光誘客活動の推進	6-13 6-15	宿泊者数(人)	66,415	68,454	69,756	77,052 (69,000)	70,000	71,000	
交流事業の推進	6-15	交流者(イベントなどによる来島者)(人)	981	814	712	846 (1,150)	1,200	1,250	
交流事業の推進	6-15	民泊人数(人)	260	618	592	414 (380)	420	460	
文化歴史資源を活用した観光の推進	5-12 6-15	鉄砲館の入場者数(人)	25,317	29,785	29,788	28,308 (27,000)	27,500	28,000	
文化歴史資源を活用した観光の推進	5-12 6-15	古民家(月窓亭など)の入場者数(人)	8,918	9,661	8,876	8,464 (10,500)	11,000	11,500	
文化歴史資源を活用した観光の推進	5-12 6-15	観光ルートの設定(回)	—	—	—	— (1)	1	1	

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応	
令和元年度の種子島への入込客数は、289,235人で、平成30年度と比較すると6,752人、2.3%の減となった。おもな要因としては、新型コロナウイルスの感染拡大により、観光客の来島が年度末にかけて大幅に減少したことがあげられる。一方で、第3四半期までは、夏場の台風の影響があったものの累計では前年度並みに推移した。特に、航空路においては、12月より使用機材について、サーブ機からATR機へ入れ替わり利便性が向上するとともに、種子島空港を利用するチャーター機も過去5年間で便数、乗降客数とも過去最高となり、厳しい状況ながらも一定の需要を取り込みつつある。観光については、島内1市2町及び種子島観光協会と連携しながら進めており、感染拡大の状況を踏まえたうえで、観光客誘客に向けて取り組みたい。	
施策の成果(貢献度の高い事業等)と現状・課題	
成 果	・観光施設の整備については、浦田海水浴場にあるシーサイドハウスが建設されて20年以上が経過し、老朽化や塩害のため改修が必要となってきたことから、改修箇所や工事費を把握するための実施設計を行った。これを踏まえ、次年度以降具体的に必要箇所を優先して複数年にわたり改修工事を行うこととする。 ・観光誘客活動の推進については、本市が主な舞台となったサーフィン映画を通じたPR活動のほか、GIR(国際交流員)を新たに配置し、SNS等を通じたインバウンド向けの情報発信を行った。 ・交流事業の推進については、東京オリンピックにおけるポルトガルのホストタウン登録を踏まえ、姉妹都市のヴィラ・ド・ビスポ市から、市長等に来島いただき鉄砲まつり等を通じて交流を行った。また、日本人オリンピックとのスポーツ教室開催で市民のオリンピックへの関心を高めることができた。

施策マネジメントシート ～2019年度の振り返りから2020年度の取組へ～

現状・課題	前年度の喜志鹿崎灯台のトイレ整備に続き、浦田海水浴場の整備に向けた事業もスタートし北部観光施設の充実が図られつつある。また、外国人観光客をはじめとした島外からの受け入れについても、1市2町による「種子島滞在型観光促進事業」において、アジア圏に向けたプロモーションや体験付の企画乗船券事業を行うなど、観光客の誘客に向けて取り組んでいるが、新型コロナウイルスの感染拡大により、先行きが見えない状況である。今後、収束後を見据え、どう取り組むかが課題となっている。
今後の方向性	今後の方向性の根拠等（他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入）
拡大・充実	政府は、新型コロナウイルス収束後を見据え今後、国内の人の流れやにぎわいを創出し、地域活性化を図る官民一体のキャンペーン「Go Toキャンペーン」を実施することから、本市においても、これを踏まえ、まずは国内の旅行者を中心に感染拡大の状況を見ながら、人の流れを回復させていくことに努める。また、これまで積み重ねてきた観光地としての魅力づくりについても、コンテンツの充実を図ることとする。

②-2 政策部会による振り返り(Check)

(6月中に記入)

今後の方向性	政策部会で出された施策に対する意見等（将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など）
拡大・充実	【産業振興部会】 ○施策担当課の記載する方向性のとおり。